



「全力の秋」スタート

今年の夏は、例年になく暑い夏でした。そして、夏と言えば「高校野球」。ここにも熱い夏がありました。特に、前橋育英と延岡学園の決勝戦は、高校生らしい清々しさがあり、多くの感動の場面に出会えました。翌日の新聞には、「優勝」「準優勝」という栄冠だけでなく、そこにたどり着くまでの過程も大きく取り上げられていました（下にその一部を紹介したので、ぜひ読んでください）。服装、時間、清掃、挨拶、ゴミ拾いなどに全力で取り組んだからこそ、野球においても全カプレーができた証だと言えるでしょう。

さて、今日から2学期のスタートです。学習の秋、スポーツの秋、読書の秋、いろいろな秋が待っています。学習面では、3年生は「学習の診断」が3回もあります。1・2年生は香川県学習状況調査があります。部活動では、新人戦があります。もちろん、テストや大会でいい結果を出すことも大切ですが、下の文章のように、中学生らしい行動や周りを思いやる心が誉められる詫中生であってほしいと願っています。

勝つことよりも、人間性を誉められる方が嬉しい

前橋育英は「凡事徹底」という言葉を掲げ、小さなことを積み重ねて強くなってきたチームだった。全力疾走やカバーリング。日常生活においては、挨拶や時間厳守、掃除を重んじ、人間性を高めてきた。荒井直樹監督は言う。「野球以外の面で重視しているのは、服装と時間、清掃などです。服装が乱れたら、社会では生きていけません。時間はただ、集合時間に間に合えばいいということではなく、提出物をきっちり守るとか、『間に合う』ということが大切。掃除については、片づける人間か片づけられない人間なのかどうか。野球の試合の中には、『試合を片づける』という部分がありますし、そこにつなげて話をします」

一方の延岡学園も、日々の積み重ねを重視するチームだった。野球の練習だけではなく、日常生活・学校生活で自身を律する。挨拶やゴミ拾いなどの当たり前のことを当たり前に繰り返してきた。重本浩司監督は言う。「うちの学校は大峽町というところにあるのですが、甲子園の出場が決まった時に、町の方から今年は甲子園に行くんじゃないかと思った、と言われました。挨拶や普段の行動を見て、今年は違うと思ってくれたそうです。僕は、勝ったことよりも、そう言ってもらえたことが嬉しかった。今年の3年生は普段の生活にしても、寮生活にしても、コツコツと積み重ねてきた。人の良さ、人間性はあると思います」

※ Number Web「甲子園の風」(氏原英明)から引用

浦島の熱い夏 ～地域で活躍する中学生～

- 7月28日(日)** 詫間ゆめ街道クリーン作戦があり、地域の方々と共に、中学生もたくさん参加しました。マリンウェーブに集まった後、町民体育館から大塚会館までの道路沿いのゴミ拾いや草抜きに全力で取り組みました。【写真左(※写真中央に映っている人は、小山PTA会長さんです)】
- 8月5日(月)** 瀬戸内国際芸術祭粟島開催に向けたカウントダウンボード作成企画に参加しました。本校は「あと47日」を担当し、3年生各部のキャプテンが集まって集合写真を撮りました。これは三豊市HPに毎日更新されており、「昨日までのカウントダウン」から見るができます。【写真中央】
- 8月23日(金)** 万引き防止キャンペーンが詫間のPICASOであり、「万引きのないまちづくり推進校」として、金子未侑さん、濱上華子さん、太田貴也君の3名が参加しました。【写真右】

